

檀信徒各位

せがき
大施餓鬼法要のご案内

聖 名 酷暑三伏の候と相成りました。

皆々様にはご健勝の事とお慶び申し上げます。

お盆の季節を迎えるに当たり、勤められてまいりました大施餓鬼法要を、今年も浄土宗久留米門中寺院ご出仕のもとに、下記のとおりつとめます。ご多忙の処とは存じますが、お繰り合わせご参詣下さいますようご案内申し上げます。 合 掌

平成 26 年 7 月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拜

※期 日 7 月 15 日 (火曜日) 午後 1 時よりご回向^{えこう}
午後 2 時より法 話

※布教師 藤野 良海 師 (神崎市 浄圓寺御住職)

※ご回向料

特別^{とうばえこう}塔婆回向 1 霊 10,000 円 以上

今年初盆を迎えられるご先祖様

特に志される霊位

(塔婆を持ち帰ってお盆までお祀り下さい)

普通回向 1 霊 1,000 円 以上 ご志納下さい。

※お供え料 随意ご志納下さい。

法要および日々のご本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

特別塔婆回向を申し込まれる方は、準備の都合がありますので、事前にお申し込みいただきますようお願いいたします。

お申し込みは郵送、ファックスでも結構です。FAX 番号 0942-32-2701

同封の申込用紙に記入のうえ、**7 月 10 日**までにお願ひします。

しょうろうだな お盆の精霊棚



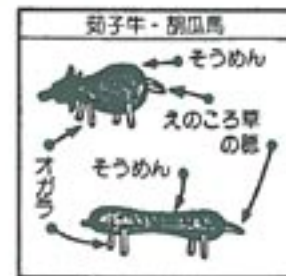
精霊棚はお盆の間、ご先祖様がおられるところです。毎日、家族の食事の前には供養をし、それから、食事を始めるようにしましょう。

地方によっては、この間の献立が厳格に決められているところもあります。

普通はそこまでしなくても、家族の食事の一部を供えたり、故人の好物を供えるということになるでしょう。



略式棚



ミソハギとは

ミソハギは高さ1m近くに成長する多年生草本。本州以南の沼地や田圃の周辺など、湿った明るい場所に生育する。全株無毛、茎は上部に至るほど四角形の断面となり、不明瞭な稜がある。葉は対生し、花弁は6枚。6月から8月のおわりにかけ、紅紫色の花を次々と付け、花期は長い。花弁はしわがよっている。よく似たエゾミソハギは毛があるので区別できる。



※精霊棚が普段の仏壇と違うのは、水の子（茄子とキュウリを細かく刻んで洗米と混ぜたものを蓮か里芋の葉に乗せる）と調加水（どんぶりに入れた供養の水）、それに茄子の牛とキュウリの馬を用意することくらいでしょうか。

※お参りの仕方

お参りする人は、ミソハギの束の先をどんぶりの調加水に浸け、水の子にふりかけてから（洒水）、拝むようにします。

ミソハギは他のもので代用できます。お盆に祭られる精霊棚（しょうろうだな）は別名、盆棚、魂棚、先祖棚ともいい、お盆の間、ご先祖様が宿るところといわれています。

期間中の供養はここでを行います。仏壇とは別にするのが一般的なやり方です。

精霊棚は普通、10日から13日の朝までには作ります。

※新盆の家では、1日ごろから作ることもあります。

以上ごく一般的と思われることを説明しました。

法然上人絵伝

第七卷第一段

法然上人の法華三昧に際し、普賢菩薩が出現する

比叡山の春、法然上人は道場の障子を開け、法華三昧の行法に励んでいる。経机には「法華経」であろう経典が置かれている。そこに突然雲に乗った白象があらわれた。象の上には普賢菩薩が乗っている。

普賢菩薩の信仰は「法華経」の「普賢勸発品」にもとづくもので、平安時代、特にさかんであった。

普賢菩薩は「無量寿経」の中に菩薩の筆頭として出てくる。釈迦仏の脇侍であり、慈悲をつかさどる菩薩である。

法華三昧は「法華経」によって行うもので、道場を厳浄し、自分の身を浄め、仏を供養、礼拝し、六根の懺悔、誦経、座禅などを行うものである。

法然上人は諸宗の教理に精通していたが、学問ばかりでなく、その修行も行って証果を得ている。とくに常行三昧はよく行われた一つである。

第九十日間、南無阿弥陀仏のお名号をとえながら、本尊阿弥陀仏の周囲をめぐることである。

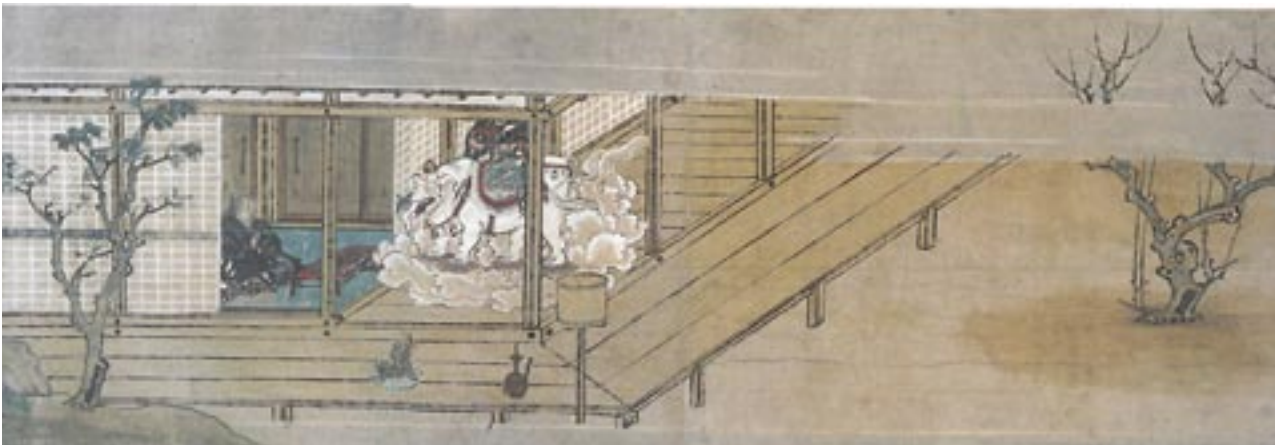
お名号をとええることは、十方の仏の名をとええるのと同じ功德になるという考え方からである。

『今昔物語』では比叡山の黒谷という別所に籠って静かに「法華経」を読み行法を勤めるところであった。

早くから助念仏をする隠遁聖が出入りするところであり、貴族との関係も深かったが、やがて唱導聖を通して庶民との連なりも芽生えた。

しかし、法然上人が登山したころの黒谷は、持戒持経を行う考えがまだ強かった。

法然上人が浄土宗を開いたときには、夢中で善導大師と対面して励まされた。また晩年には三昧を発得し、阿弥陀さまの影向がよくあつた。当時の夢は修行の成果をの正しさを実証するため役立った。だから普賢菩薩の出現も、成果を証明する大切な証拠となった。



釈尊の生涯 病に倒れる

釈尊の伝道生活はその人その人に適切な教えを説きつつ各地を巡って、八十の齢を迎えるまで、四十五年の長きにわたって続けられた。

ヴァイシャーリーに着かれた時、ちよほど長い雨期が始まって高い湿度と暑さに悩まされた釈尊は、疲労のかさなりもあつて、ついに病魔に倒れた。常侍のアーナンダは師と永久に別れる時が迫ってくるように感じ、彼はそれとなく釈尊に教えを乞うた。

釈尊は「アーナンダよ、私は人々に隠し立てするような秘密の奥義を持っていない。私が死んだのちは、自己を灯明として自己をよりどころとし、法を灯明として法をよりどころとして生きてほしい。そうすることが私とともに在ることである」と説き、さらに、「私はもう齢をかさねて老衰し、人生の旅路を過ぎて、八十の齢を迎えた。アーナンダよ、これは私がヴァイシャーリーを見る最後のながめとなるであろう。」と告げ、バンドラ村を経てパーヴァー村でチュンダの献じた食事をとられた。激しい腹痛に見舞われ、重い病になやまされながら、クシナガラへ行こうとアーナンダを促された。

施餓鬼法要はどんな意味があるのでしょうか？

施餓鬼会(せがきえ)

「おせがき」は、「施餓鬼会(せがきえ)」「施食会(せじきえ)」などといわれ、各宗派を通じて行われる仏教行事の一つです。

その由来は、『救拔焰口餓鬼陀羅尼經(くばつえんくがきだらにきょう)』というお経によるといわれています。

それによると、釈尊の十大弟子の一人である、阿難尊者(あなんそんじゃ)が、ひとりで瞑想している時、口から火を吐く一人の恐ろしい餓鬼があらわれ、「お前は3日後に死んで、我々と同じ恐ろしい餓鬼道に落ちる。」と言いました。恐れおののいた阿難尊者が、どうしたらそれを免れることができるかを釈尊に尋ねたところ、釈尊は、「その苦から免れたければ、三宝(仏・法・僧)に供養しなさい。また無数の餓鬼たちに食物をほどこして供養した 功德(くどく)により、餓鬼も救われ、その功德によってお前も救われるだろう。」と答え、姿を消しました。

施餓鬼会(せがきえ)は、釈尊に教えを請い、寿命を延ばすことのできた阿難(あなん)の説話にもとづく行事であり、その求めに応じて釈尊が示された修法が施餓鬼会のはじまりとされています。

そして餓鬼だけでなく、先祖代々や広く無縁の諸精霊(しよしょうれい)を供養し、また、同時にみなさん自身の福德延寿(ふくとくえんじゅ)を願うわけです。

ぜひこの施餓鬼会の機会に、心からお念仏を称(とな)え、自他ともに救われる 功德(くどく)を積んでいただきたいものです。

本来、施餓鬼会の期日は定められていませんが、お寺の年中行事のひとつとして、お盆の頃におこなわれることが多く、施餓鬼棚に「三界万霊牌」や初盆の戒名を記した位牌を置き、浄水や食物を供え、五如来の「施餓鬼幡」を立てて法要を営むのが習わしです。

14日会(お勤めと写経の会)

1, 日時 第3木曜日に変更になりました。

時間は午後3時からです。

2, 場所 2階本堂にて行っております。
どうぞいつでも気軽にご参加下さい。

※(7月は第2木曜日午後3時より)

3, 納経(聖観世音菩薩像の台座)に納経いたします。

納経料 1巻 金1,000円です。

カーラビンカ合唱団

練習日 毎月 第2、第4 木曜日
午前9時30分より11時30分
※変更になる月もあります。

会費 2,000円
※随時会員募集しています。
お問い合わせは 無量寺までどうぞ

コンサートのお知らせ

期日 12月4日(木曜日)
場所 ホテルマリターレ創世